

京都大学の概要

京都大学の特色

京都大学は日本を代表する総合大学として10学部に加え充実した大学院や全国一を誇る研究所群を擁し、多数の海外拠点や学術交流協定等を通じて幅広い国際ネットワークを構築しています。また、教育・研究活動を支える日本有数の充実した環境のもと、「対話を根幹とする自学自習」によって創造の精神を涵養する世界最高水準の学びの場を提供しており、多くの卒業生が学術分野のみならず、産業界、官界などさまざまな分野で活躍しています。

本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いており、これらの先端的研究を担う研究者たちが連携して、全学体制で初年次からの基礎・教養教育を行うのが京都大学の特色です。

WEB

大学案内冊子「知と自由への誘い ～京大は、おもしろい。～」は、ホームページでご覧いただけます。
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/undergrad/admission>

京都大学の基本データ

(平成30年5月1日現在)



学生数

学部学生
13,117名

大学院生学生
[修士] [博士] [専門職学位]
5,036名 **3,621**名 **710**名



職員数

全体
5,470名

教員
2,699名

事務職員・技術職員等
2,771名



国際交流

外国人教職員
426名

外国人留学生
2,474名 112カ国・地域

大学間学術交流協定
179件 51カ国・地域



組織

学部・研究科等
10 学部

18 研究科

13 附置研究所

海外拠点
59 拠点 (26カ国・地域)

土地面積
5,058万㎡
(国内 + インドネシア)

建物面積
136万㎡



受賞者数

ノーベル賞
受賞者
9名

赤崎 勇 (2014年 物理学賞)
山中 伸弥 (2012年 生理学・医学賞)
小林 誠 (2008年 物理学賞)
益川 敏英 (2008年 物理学賞)
野依 良治 (2001年 化学賞)
利根川 進 (1987年 生理学・医学賞)
福井 謙一 (1981年 化学賞)
朝永 振一郎 (1965年 物理学賞)
湯川 秀樹 (1949年 物理学賞)

フィールズ賞
受賞者
2名 森 重文 (1990年)
廣中 平祐 (1970年)

ガウス賞
受賞者
1名 伊藤 清 (2006年)

WEB

詳細は京都大学概要2018をご覧ください。
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/ku_profile

特集 | 京都大学の変遷 ～学部・研究科の軌跡から～

本学は、日本を代表する総合大学として10学部に加え、学部と一体となった10の研究科、学部を持たない6つの独立研究科、2つの専門職大学院を擁し、質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してきました。今回は京都大学創設121年を迎えるにあたり、時代・社会の要請・変化に応じた改組・展開を経ながら、今もなお「新しい知の創造」を目指して発展・成長し続けている本学の学部・研究科の軌跡をご紹介します。

創立100周年を迎える/経済学部・経済学研究科

日本の大学で最も長い歴史を持つ経済学部の1つとして、2019年には創立100周年を迎えます。今後とも多くの留学生を含む多様な学生を受け入れ、京都という環境の中で「伝統と革新」、先人たちによって共有されてきた「リベラルな知的雰囲気」を活かし世界水準の教育・研究を充実させることを目指します。

1919年経済学部設置 / 1953年経済学研究科設置 / 2019年100周年を迎える予定

医療技術短期大学の4年制移行/医学部・医学研究科

1975年に開設された医療技術短期大学は、卒業生3,998名、専攻科修了生617名という多くの優れた医療技術者を世に送り出し、2007年をもって、その32年の歴史に幕を降ろしました。医療技術短期大学はその役目を終えましたが、豊かな人間性と優れた技術・知識を兼ね備えた医療技術者を育成するという理念は医学部保健学科、医学部人間健康科学科へと発展的に引き継がれています。

1975年医療技術短期大学の開設 / 2003年医学部保健学科開設 / 2007年医療技術短期大学の閉校 / 2008年医学部人間健康科学科(医学部保健学科から)改称

本学最大の学部/工学部・工学研究科

工学部は京都帝国大学創設より大学の歴史と共に歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学生数を有する学部へ発展しました。

1897年理科大学開設 / 1914年理科大学と工科大学に分かれる / 1919年工科大学から工学部に(学部制) / 1953年工学研究科設置 / 2003年桂キャンパス開学

大学内の大学院との連携・協働/地球環境学学・学舎

地球環境学学・学舎(ちきゅうかんきょうがくどう・がくしゃ)は、研究組織(地球環境学学)と、研究者及び実務者養成を目的とした教育組織(地球環境学舎)、教育・研究支援組織(三才学林)の3つの組織で構成されています。既存専門基盤と地球環境学の双方をつなぐ学際的研究・教育を行うため、多様な組織との連携・協働により運営されています。

2002年大学院地球環境学学・学舎設置

日本唯一の大学院/アジア・アフリカ地域研究研究科

アジア・アフリカを対象とした地域研究に特化した日本唯一の大学院であり、文理融合の地域研究、5年一貫制の教育、複数教員による指導体制、フィールドワークを重視した研究などの特徴をもち、地球・地域・人間の共生に向けて寄与する教育・研究を実施しています。

1998年アジア・アフリカ地域研究研究科設置

教養部の発足と廃止して/人間・環境学研究科/総合人間学部

戦後の教育改革により、新制大学においても一般教育が重視され、京大分校(のちに教養部と改称)が設置されます。その後、大学改革が始まり、教養部は戦後大学の新しい理念のもとで果たした役割を終えることとなりました。

1949年京大分校(現在の吉田南構内)設置 / 1954年教養部に改称(学内措置) / 1963年教養部設置(文部省令による) / 1993年教養部廃止

大学院人間・環境学研究科及び総合人間学部は、ともに教養部を母体として設立された部局です。総合人間学部は1992年に第1期生を迎え入れた、本学でもっとも新しい学部です。文理の枠を超えて「人間と環境を考える新しい学」を拓いていきます。

1991年人間・環境学研究科設置 / 1992年総合人間学部設置

帝国大学創設と共に開設/理学部・理学研究科

京都帝国大学理科大学の中核として創設されて以来、視野の広い教育を授け、現在まで一貫して自由にして独創性に富む気風を何よりも大切に継承してきました。その一端は、卒業生の中から多数のノーベル賞・フィールズ賞受賞者を出したことからもうかがえます。

1897年理科大学開設 / 1914年理科大学と工科大学に分かれる / 1919年理科大学から理学部に(学部制) / 1953年理学研究科設置

